

北九州市立大学 データサイエンス・AI 教育プログラム (応用基礎) 自己点検・評価の結果 (令和 5 年度)

本教育プログラムの自己点検・評価にあたり、内部質保証推進室・基盤教育センター・FD 委員会および授業担当教員が連携して、履修・修得状況の把握、アンケート実施、学修成果の確認および理解度・満足度の把握を行った。これらの結果をもとに、自己点検・評価を実施し、教育プログラムの改善に取り組んだ。

以下に自己点検・評価の結果を示す。

【学内からの視点】

① プログラムの履修・修得状況

プログラムの履修・修得状況は、本教育プログラムを構成する科目である「社会を動かすデータ活用」および「社会で生きる AI 技術」の履修・単位取得状況を把握することにより確認した。受講者ごとの課題・演習等の進捗状況は、LMS を活用することにより把握した。

令和 5 年度は、全学部・学群で

- ・「社会を動かすデータ活用」 履修者 205 名、単位取得者 155 名
- ・「社会で生きる AI 技術」 履修者 309 名、単位取得者 225 名

であり、プログラム履修者 394 名^{※1}、プログラム修了者 84 名^{※2}であった。

※1 プログラム履修者：

「社会を動かすデータ活用」または「社会で生きる AI 技術」の履修者

※2 プログラム修了者：

「社会を動かすデータ活用」および「社会で生きる AI 技術」の単位取得者

② 学修成果

本教育プログラムを構成する科目である「社会を動かすデータ活用」および「社会で生きる AI 技術」の受講者に対して授業評価アンケートを実施することにより、学修成果に関する結果を確認し、本教育プログラムの自己点検および評価・改善に活用した。

また、課題・演習等の成果物およびディプロマ・ポリシーの到達度を把握することにより、学修成果を確認した。

課題・演習等の成果物およびディプロマ・ポリシーの到達度により成績評価を行った結果、令和 5 年度の単位取得率は、

- ・「社会を動かすデータ活用」 単位取得率 76% (155/205 名)
- ・「社会で生きる AI 技術」 単位取得率 73% (225/309 名)

であることを確認した。

③ 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

本教育プログラムを構成する科目である「社会を動かすデータ活用」および「社会で活きる AI 技術」の受講者に対して授業評価アンケートを実施することにより、学生の理解度を把握し、自己点検および評価・改善に繋げた。

また、授業評価アンケート結果を授業担当教員にフィードバックし、教員自らによる自己点検および評価・改善に活用した。令和 5 年度の結果は、

・「社会を動かすデータ活用」 理解度 4.46/5 点, 満足度 4.61/5 点

・「社会で活きる AI 技術」 理解度 4.43/5 点, 満足度 4.50/5 点

となり、「理解度：深まった/やや深まった」「満足度：満足/やや満足」の回答が多いことを確認した（別紙参照）。

④ 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

本教育プログラムの詳細について Web サイトに掲載して、在学生・入学希望者等へ周知する予定である。

また、授業評価アンケートにおける理解度・満足度の結果を踏まえて、入学オリエンテーションでのアナウンスや関連科目での科目案内資料配布などを行い、プログラムの履修を推奨する予定である。

⑤ 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本教育プログラムの開設年度は令和 5 年度である（令和 4 年度以降入学生、2 年次以降が対象）。そのため令和 6 年度以降は、履修者数累積および履修率は増加すると見込まれる。

なお、本教育プログラムの詳細については Web サイトに掲載して学生へ周知するとともに、関連科目等でのアナウンスを行う予定である。これにより履修者数・履修率の向上に向けた取り組みを行う。

【学外からの視点】

① 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

令和 5 年度時点で本教育プログラムの修了者で卒業した学生はいない。将来的には進路、活躍状況、企業等の評価を把握し、本教育プログラムの改善の参考とする予定である。

② 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

令和 5 年度時点で本教育プログラムの修了者で卒業した学生はいない。将来的には本教育プログラム内容・手法等に対する企業等からの意見を把握し、教育プログラムの改善の参考とする予定である。

【その他】

① 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

本教育プログラムを構成する科目である「社会を動かすデータ活用」および「社会で生きるAI技術」について、データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を理解してもらえようような講義内容を検討し、授業を実施した。

また、授業評価アンケートの結果を踏まえ、学修成果に関する結果を自己点検および評価・改善に繋げ、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解してもらえようような教育プログラムを検討した。

令和5年度の授業評価アンケート結果は、

- ・「社会を動かすデータ活用」 理解度 4.46/5 点, 満足度 4.61/5 点
- ・「社会で生きるAI技術」 理解度 4.43/5 点, 満足度 4.50/5 点

であった。「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を意識した授業を実施した結果、理解度や満足度の観点から「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を理解してもらえよう内容になっていると考えられる。

② 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

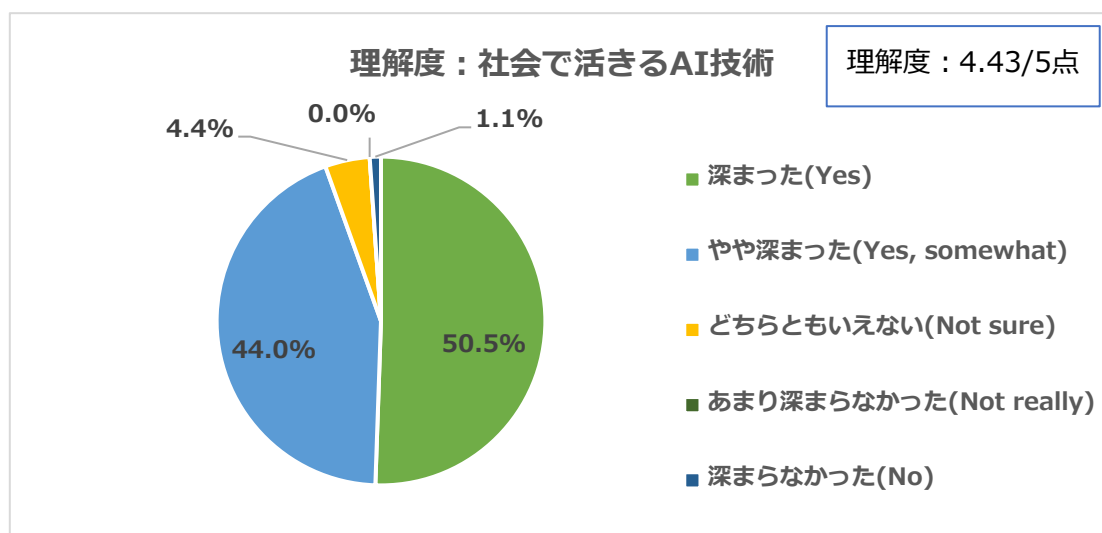
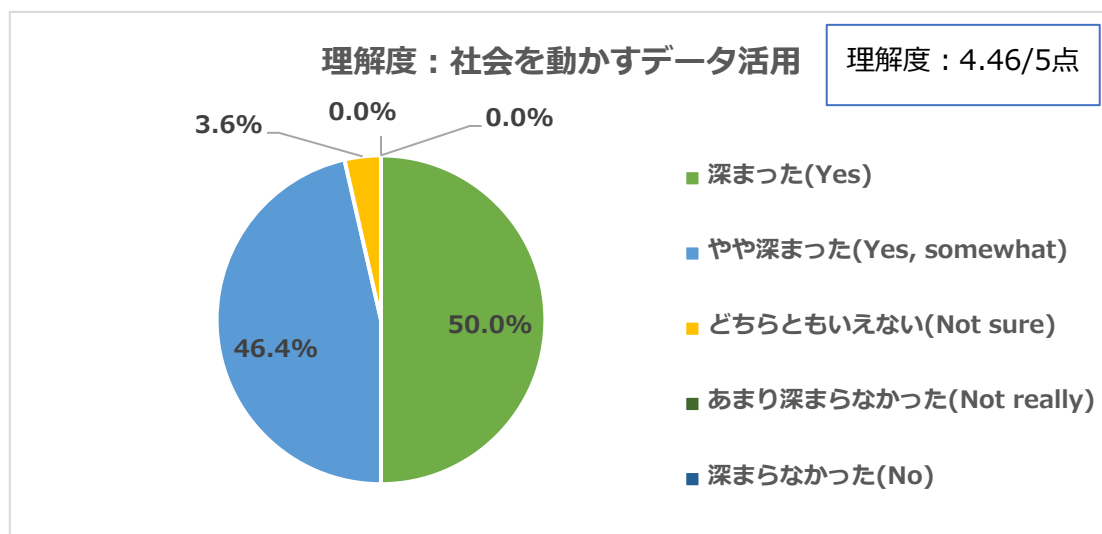
授業評価アンケートにより、学生の理解度を把握し、学修成果に関する結果を自己点検および評価・改善に繋げた。

また、授業評価アンケート結果を授業担当教員にフィードバックすることにより、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業となるように、教員自らによる自己点検および評価・改善も行なった。

別紙：2023年度「社会を動かすデータ活用」および「社会で生きるAI技術」授業評価アンケート結果（理解度，満足度）

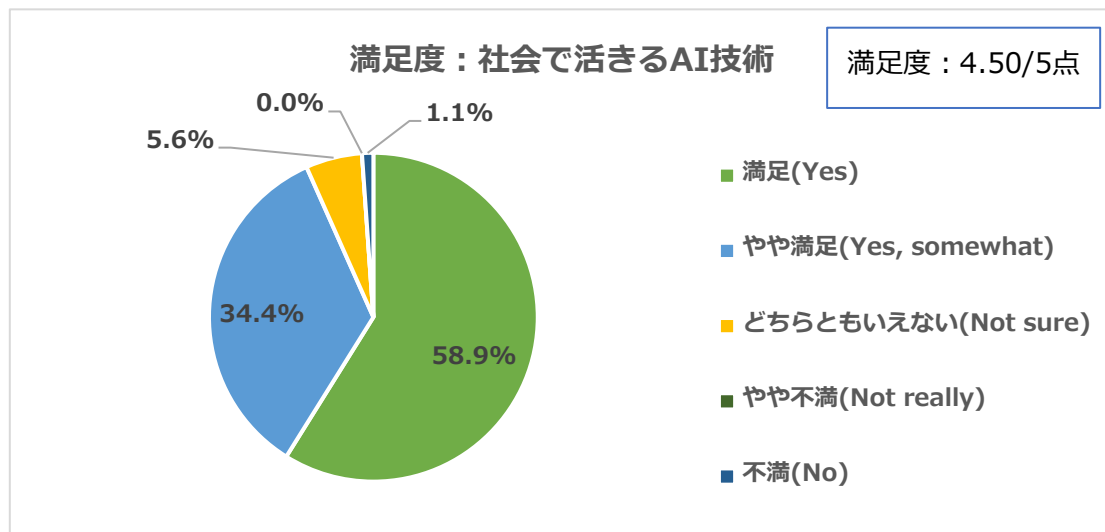
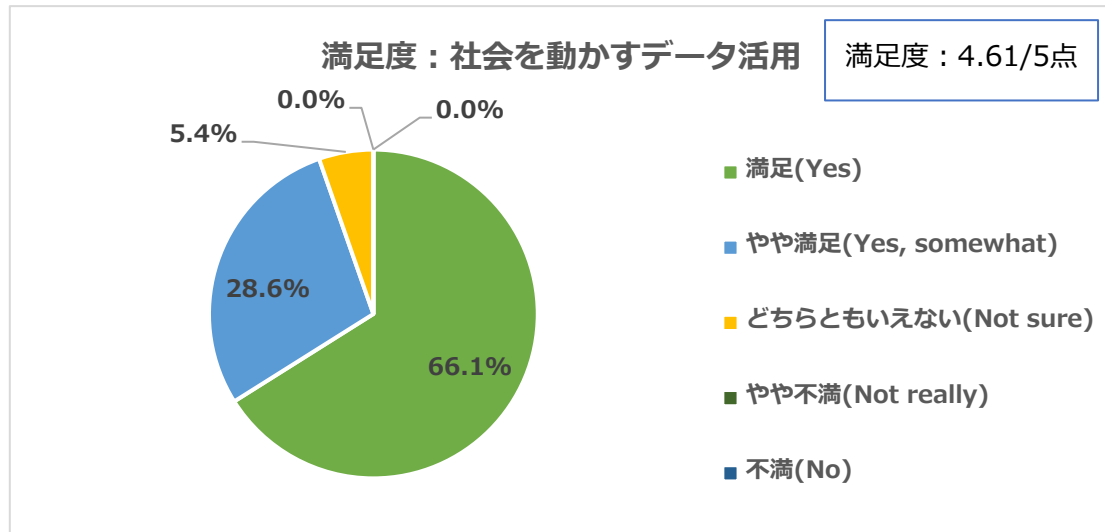
北方キャンパス（外国語学部，経済学部，文学部，法学部，地域創生学群）学生とひびきのキャンパス（国際環境工学部）学生を対象として，「社会を動かすデータ活用」および「社会で生きるAI技術」のメディア授業を各1クラス実施した。両科目の授業評価アンケート結果（理解度，満足度）を以下に示す。結果から，両科目とも理解度・満足度ともに肯定的な回答が多いことが確認できる。

【理解度の結果】



$$\text{理解度} = [\text{深まった}(\%) \times 5 \text{点} + \text{やや深まった}(\%) \times 4 \text{点} + \text{どちらともいえない}(\%) \times 3 \text{点} + \text{あまり深まらなかった}(\%) \times 2 \text{点} + \text{深まらなかった}(\%) \times 1 \text{点}] / 100$$

【満足度の結果】



$$\text{満足度} = [\text{満足}(\%) \times 5 \text{点} + \text{やや満足}(\%) \times 4 \text{点} + \text{どちらともいえない}(\%) \times 3 \text{点} + \text{やや不満}(\%) \times 2 \text{点} + \text{不満}(\%) \times 1 \text{点}] / 100$$